

約1ヶ月間行われた9月(令和6年度決算)議会が終了

主となる決算特別委員会では、環境水道委員会(環境局、上下水道局、消防局、危機管理室)と建設建築委員会(都市戦略局、都市整備局、交通局、技術管理局)を所管し、議案を審査しました。

また、会派を代表し、一般質問と市長質疑を行いました。

どちらも未来を見据えた内容でしたので、具体的な答弁は少なかったですが、将来への問題提起をさせていただきました。

紙面の関係で要旨と内容の一部をご紹介します。詳細につきましては、よろしければ動画をご覧ください幸いです。



【一般質問】

(1) 地域で守る食の安全保障

「コメを軸とした北九州市圏域の連携について」

- ・北九州市圏域内の農家と連携するため、各自自治体におけるコメの流れ、必要量や買取り価格などを早期に把握できないか
- ・まずは学校給食から試行を始め、1、2か月分を玄米で備蓄し、給食に回しながら循環させていくという取組みはできないか

(2) 市民の安心につながる外国人住民との共生について

- ・外国人住民の現状について、市としてどのように基礎情報を収集・整理し、市民に分かりやすく示していくのか
- ・今後、合法的に市内で生活する外国人住民と地域住民が互いに尊重し合い、安心して共生していくためには
- ・外国人施策は国や県と関わる部分が大きいと考えるが、本市として国や県との役割分担や連携をどのように進めていくのか
- ・外国人の受入れが過度に拡大し、地域に不安や摩擦が生じないために、今後の外国人の受入れに関する見通しは

pickup

動画QR↓



【奥村 質問】

全国各地で、外国人住民と地域住民との間に摩擦が生じる事例が報道されている。本市においては、現時点で大きな摩擦が顕在化してはいないと承知している。し

pickup

皆様には日本人が大切にする和の精神を知っていただくことで、何かを強要し合う「多文化共生」ではなく、互いを認め合う「『和』文化共生」の社会を実現して参ります。

●市長質疑

- ・公共交通の不便地域における交通・生活サービスの確保について

動画QR↓



【奥村 質問】

郊外部など公共交通不便地域における交通・生活サービスの確保については、市内の公共交通人口カバー率を約86%に維持することなどが目標値として掲げられている。しかし、これは居住地から500メートル以内、または300メートル以内、バス停があることを意味するだけで、その駅やバス停から実際にどれだけの便数が確保されているかは反映されていない。

また、このような地域では、夜間に地域外へ移動すること自体が困難という現実が残されており、市がナイトタイムエコノミー(夜間の経済活動)を推進しているにもかかわらず、地域によつてはそれに参加する機会すら制限される現状は、市民にとって不公平ではないかと考え、以下質問する。

不便地域の実態把握として、夜間や週末など時間帯別の公共交通人口カバー率を調査すべきではないか。

また、夜の繁華街ではタクシー不足

かし、今後外国人住民が増えていくことを見据えると、課題が表面化する前に、市として基盤を整えておくことが重要だと考える。

本来、雇用はできる限り国内で担うことが理想だと考えており、職場環境の改善や待遇の向上によつて仕事の魅力が理解されれば、国内の人材で解消できる部分も多いはずである。また、不法滞在など法に反する事例については、厳格に対応していくことが必要である。

しかし現実には、外国人の方々が本市に居住し、合法的に学び、働いている。そうした方々とは互いを尊重し合い、安心して共生できる関係を築いていくことが必要と考える。

そこで、合法的に市内で生活する外国人住民と地域住民が互いに尊重し合い、安心して共生していくために、今後どのような施策を展開していくのか見解を伺う。

【市長 答弁】

とりわけ近年、外国人の受入れが急激に拡大することを不安に感じられる市民もいることも踏まえ、市民の不安にも寄り添いながら、多文化共生の取組みを進めていくことも、ますます重要と認識をしている。

なお、北九州市の外国人の状況を見ると、外国人住民数は令和7年3月末時点16930人で、全人口に占める外国人の割合は約1.9%と、政令市平均3.22%を大きく下回り、20政令市の中では16番目となっている。

また、直近の国の動きとしては、まず1つに経済成長・産業政策の観点から、将

が深刻なため、夜間の公共交通に関する満足度を切り分けて調査し、実態を明らかにすべきではないか。

【市長 答弁】

公共交通は、市民の皆様の暮らしや社会経済活動を支える極めて重要な社会インフラである。しかしながら、利用者の減少をはじめ、高齢化や労働力の縮小などに伴う運転手不足が顕在化している。

こうした状況もあり、交通機関の利便性に関する市政モニターアンケートにおいては、バスの運行本数が少ない、公共交通乗り継ぎが悪いなどのご意見もいただいている。

現在、北九州市の公共交通人口カバー率については、駅やバス停からの距離を基礎としているが、地域の実態をよりの確に反映した指標とするためには、議員が指摘するとおり、時間帯別の便数に加えて、利用者の年齢、目的など、他の要素も考慮に入れることは重要な視点であると認識をしており、交通空白解消に向けた指標の定義づけと、それを把握するための手法について検討を進めているところである。

また、タクシー不足などへの対応として、まずはタクシーの配車状況を把握するため、配車アプリの運用データを活用し、エリアごとのタクシー需要、配車に要した時間、配車できなかった件数などの調査を実施し、課題の整理や今後の改善策の検討につなげていく考えである。



来的にどの程度の外国人を受け入れることが適切か、また、どのような産業・業務にどのような外国人がどの程度必要か、2つ目に、地域の生活者としての観点から、外国人を地域の生活者としてどのように受け入れていくか、3つ目に、治安の観点から、外国人の受入れにより治安にどのような影響を与えるか、などが示されており、多角的な観点から、今後検討が深められるものと承知をしている。

外国人の方々をどのように受け入れていくかについては、先進諸国共通の課題として国際的に議論がなされており、我が国にとつても国家的な課題である。

現在、様々なレベルで行われている検討や取組みに注視しつつ、市民の声に寄り添いながら、日本人と外国人が互いに尊重し、安全・安心に暮らせる多文化共生社会の実現を目指すとともに、全ての市民が自分らしく活躍し、国内外から人々が集う魅力的なまちづくりを進めていきたいと考えている。

【奥村 見解】

私は、外国人の皆様にぜひとも日本語をどんどん学んでいただきたいと思っています。日本語というのは、縄文時代から使われていると言われる大和言葉から繋がっており、日本人らしさが詰まっていると考えます。

政治学者で九州大学院の施光恒教授

【奥村 見解】

これから詳細な調査が行われることが分かりました。ただ、タクシーの配車アプリの結果からだけで判断してしまうと、現時点でタクシーは来ないからと諦めて呼ばない方のニーズを掴むことができませんので、より丁寧な情報収集が必要です。また、飲食店などの皆様が見聞きしている顧客のニーズを教えていただくことも有用です。

私は以前より、「利用者の予約に応じて、時刻表やルートを柔軟に設定して運行する乗り合いの公共交通サービス」であるオンデマンド交通の実現を訴えてきました。そこで、今回の質疑の最後に、より幅広く、細かく多様なニーズを掴み、将来のオンデマンド交通の実現につなげていくことを想定した調査を要望して締めました。

